

製品安全データシート

製造者情報

会社 ニチレキ株式会社
住所 東京都千代田区九段北4-3-29
担当部門 技術部
TEL 03(3265)1513
FAX 03(3265)5790
緊急連絡先 03(3265)1513

整理番号 02031

作成 平成 6年 7月26日
改訂 平成22年12月25日

製品名

ポリファルトSS

危険物有害性の要約

GHS分類：

眼に対する重篤な損傷性／刺激性： 区分2B
特定標的臓器（反復暴露）： 区分2（呼吸器）

上記に記述がない危険有害性については、区分外、または分類対象外、分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起後： 警告

危険有害性情報： 眼刺激
長期又は反復暴露による呼吸器障害の恐れ

注意書き

【予防策】

- ・粉塵、煙の吸入を避けること。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。
- ・加熱時に一酸化炭素や硫化水素を発生する可能性があるため、室外で取り扱う場合は風上で作業を実施し、室内の場合は十分な換気を行う。

【対応】

- ・眼に入った場合、水で数分間注意部深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断・手当てを受けること。

- ・気分が悪い場合、医師の診断・手当てを受けること。

【保管】

【廃棄】

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

物質の特定 単一製品・混合物の区分 混合物
化学名 不明

成分名	含有量(%)	官報公示 整理番号	CAS No.	国連番号 分類
ストレートアスファルト	90～98	(9)-1720	8052-42-4	—
スチレン・ブタジエン 共重合体	2～10	(6)-134	9003-55-8	—
その他	0～5	—	—	—

応急措置

- 吸入した場合：
- ・新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。身体を毛布などでおおって保温して 安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
 - ・呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は衣服を緩め、呼吸道を確認した上で人工呼吸を行う。
 - ・加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります、吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる場合があります。従って、汚染の可能性のある場所からは出来るだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合には空気呼吸器を装着する。
- 皮膚に付着した場合：
- ・大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着した製品は取り除かないで、医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合：
- ・大量の水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続け、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合：
- ・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。

火災時の措置

- 消火の方法：
- ・火元への燃焼源を断つ。
 - ・初期の火災には粉末、炭酸ガスを用いる。
 - ・大規模火災の際は、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
 - ・周囲の設備などは散水して冷却する。
- 消火剤：
- ・霧状の強化液、泡、炭酸ガス、粉末が有効である。
- 使ってはならない消化剤：
- ・棒状の水は火災を拡大し、危険な場合がある。
- 消化を行う者の保護：
- ・消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： ・作業では消火用保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項： ・下水道、河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。
多量に漏出した場合、関係者に通報する
- 除去方法： ・全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
・危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
・少量の場合は、土・砂・おがくず・ウエス等に吸収させる。
・大量の場合は盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆いから容器に回収する。
- 二次災害の防止： ・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
-

取扱いおよび保管上の注意

取扱い：

- 技術的対策： ・数量3000kg以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。
・炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりにミスト・蒸気を発生させないこと。
・熔融したものは、水と接触すると飛散するので水分が混入しないよう注意すること。
- 注意事項： ・熔融したものは皮膚に触れると火傷をする恐れがあるので、作業中は、手袋その他の保護具を着用すること。
・屋内で熔融する場合は、十分な換気を行うこと。また、火気に注意すること。
・本製品は硫化硫黄を含み、また加熱時には一酸化炭素を発生する可能性があるため、容器やハッチ（船・ローリー）に直接顔を近づけ、中を調べるようなことはしないこと。また、硫化水素や一酸化炭素を吸い込まないように、風上で作業を行うこと。
- 安全取扱い注意事項： ・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。

保管：

- 適切な技術対策： ・数量3000kg以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類はアースをとる。
・加温状態で保管する場合には、異常発熱や雨水の混入に注意する。常温で保管する場合は、直射日光の当たらない室内に保管する。
・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と同一の場所で保管しない。
- 注意事項： ・熱、スパーク、火炎並びに静電気の蓄積を避ける。
- 容器包装材料： ・法令の定めるところに従う。
-

暴露防止措置

- 設備対策： ・屋内作業場は、防爆タイプの排気装置を設置する。
・取扱い所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度： ・特になし
- 許容濃度： ・日本産業衛生学会 勧告値なし
A C G I H 0.5mg/m³（アスファルトヒューム）

保護具： ・状況に応じて保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、呼吸器用保護具等を使用する。

物理及び化学的性質

形状：	固体
色：	黒色
臭い：	データなし
pH：	データなし
初留点：	350℃以上
沸点：	データなし
凝固点：	データなし
分解温度：	データなし
引火点：	320℃
発火点：	約480℃（参考値）
爆発限界：	上限 データなし 下限 データなし
密度：	1.03 g/cm ³
溶解度 水：	不溶
揮発性：	なし

安定性及び反応性

安全性：	通常 of 取扱い条件においては安定である。
反応性：	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件：	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。静電放電、衝撃、振動など避ける
避けるべき材料：	現在のところ有用な情報なし。
危険有害な分解生成物：	燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。 製品加熱中あるいは高温貯蔵時に硫化水素、一酸化炭素が発生する可能性がある。
その他：	現在のところ有用な情報はなし。

有害性情報（アスファルトとして）

急性毒性：	経口 ラット LD50 5000 mg/kg以上。 経皮 ウサギ LD50 2000 mg/kg以上。
皮膚腐食／刺激性：	ドレイズテストの結果は刺激性なし
眼に対する重篤な：	ドレイズテストの結果、軽度の刺激性有り。
損傷性／刺激性	
刺激性：	熔融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。
呼吸器感受性：	現在のところ有用な情報はなし。
皮膚感受性：	モルモットに対する皮膚感受性試験結果で陰性との報告あり。
生殖細胞変異原性：	現在のところ有用な情報はなし。
発がん性：	IARCはグループ3（ヒトに対して発がん性について分類できない）に分類している。 各種の報告から、アスファルトヒュームは動物に対する長期的吸入による発がん作用は持たないと考えられる。
生殖毒性：	現在のところ有用な情報はなし。

特定標的臓器（単回）：黒ネズミに対して針入度級アスファルトを3ヶ月毎に200mg皮下注射したが、解剖所見では皮膚腫瘍は見られなかった。

特定標的臓器（反復）：アスファルトヒュームの吸入試験（マウス、6～7h/日、5日/週で21ヶ月）で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。

吸引性呼吸器有害性：動粘性率が8000mm²/s以上であるので区分外。

その他：
・製品は通常加熱されているため、皮膚や眼に触れると火傷を生じる。
・高温時に発生するガスを吸入すると、嘔吐やめまいを起こすことがある。

環境影響情報

生態毒性： 有用な情報なし。

残留性・分解性： 発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。
アスファルトは水中で分散性に乏しく、土壤中で移動性はない。

生体蓄積性： 極めて水に難溶であり、高分子量であるため、水中生物の体内に取り込まれるとは考えにくい。

土壤中の移動性： なし。

廃棄上の注意

- ・自治体の指示により、知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理する。
- ・海、河川、湖やその付近、排水溝に投棄してはならない。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。

輸送上の注意

陸上： 消防法 指定可燃物（3,000kg以上の場合のみ）

海上： 船舶安全法 非危険物

航空： 航空法 非危険物

国連分類： 該当しない

安全対策および条件：輸送は通常ローリーによる熔融液体であるため、火傷しないように注意して取り扱う。

適用法規

消防法： 3000kg以上の場合、指定可燃物

労働安全衛生法： 通知対象物

海洋汚染防止法： 油分排出規制

下水道法： 鉱油類排出規制

水質汚濁防止法： 油分排出規制

廃棄物の処理および清掃に関する法律： 産業廃棄物規則

引用文献

- 1) 危険物、毒物処理取り扱いマニュアル（海外技術資料研究所）
- 2) 製品安全データシートの作成指針（日本化学工業協会）
- 3) 化学物質の危険・有害物便覧（中央労働災害防止協会）
- 4) 化審法化学物質 第5版（化学工業日報社）

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者に提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。